



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟  
編集・発行人 小合信也  
東京都文京区後楽1-7-12  
〒112-0004 林友ビル6階  
電話 03(3818)2906  
FAX 03(3818)2907  
毎月1回1日発行  
定価・年3,000円  
(会員は会費に含まれています。)

### 国土交通省新年度予算案

平成29年度国土交通省関連予算(案) (一般会計)は、前年度並みの5兆7、946億円が確保された。住宅対策で重要なものは以下のとおり。

○スマートウエルネス住宅等推進事業  
サービスタ付き高齢者向け住宅(サ高住)について、供給加速や多様な居住ニーズに応じた整備の推進を図るため、320億円が予算化された。

○地域型住宅グリーン化事業  
省エネルギー性能や耐久性等に優れた木造住宅・建築物の整備について、地域における木造住宅の生産体制を強化し、環境負荷の低減を図ることとし、114億円が予算化された。

○長期優良住宅化リフォーム推進事業  
良質な住宅ストックの形成、若者が既存住宅の取得をしやすい環境や子育てしやすい環境の整備を図るため、既存住宅の長寿命化等に資するリフォームの取組みに対する支援を延長するとともに、長期優良住宅(増改築)認定を取得した上で、さらに省エネ性能を高める場合の補助限度額の拡充等を行うこととし、41億円が予算化された。

○地域に根ざした木造住宅施工技術体制

### 整備事業の創設

急激な大工技能者の減少・高齢化に対し、地域における木造住宅施工技術体制を維持・整備するため、民間事業者からなるグループが行う大工技能者育成のための研修活動を支援する。

○新たな住宅セーフティネット制度創設  
子育て世帯や高齢者世帯などの住宅確保要配慮者の増加に対応するため、民間賃貸住宅や空き家を活用した住宅確保要配慮者向け住宅の登録制度等を内容とする新たな住宅セーフティネット制度を創設し、住宅の改修や入居者負担の軽減、居住支援協議会等による居住支援活動等への支援を行う。

### 第44回JAS製材品普及推進展示会 四社に農林大臣賞

44回JAS製材品普及推進展示会の表彰式・記念講演会を開催した。出席は、服部順昭審査委員長(日本木材加工技術協会会長)、吉条良明全木連会長、市川英治全市連会長、早川金光全買連会長ほか三団体の役員、受賞関係者など。

また、来賓として、農林水産省食品製造課中熊課長補佐、林野庁木材産業課の宮澤俊輔課長(公務のため途中退席)、井口真輝木材製品技術室長、大倉課長補

佐等の関係者多数のご出席を頂いた。全木連の吉条会長は、主催三団体を代表し、本年度の展示会にご協力を頂いた関係者への謝辞、政府に施策・新国立競技場等国民の木材に対する関心が高まっていること、品質・強度の担保された、JAS製材品への期待がこれまで以上に高まっておりJAS製材品の普及推進・供給体制を図っていききたい等挨拶した。

### 【審査結果の講評】

服部委員長より、次のとおり講評頂いた。昨年の9月から11月まで6会場で全国木材組合連合会・全日本木材市場連盟、全国木材市販買方組合連盟主催の第44回JAS展示会の審査を行った。主催団体、各会場の審査委員とオブザーバー、検査員の皆様には厚く御礼。含水率を始め厳正な審査と総合調整審査ができた。今年度の出品工場数は66で、前年度より2工場増、出品量は567㎡でした。1工場当たり出品量は8・3㎡から8・6㎡に微増。審査結果は、100点満点が16工場と昨年度の倍となり、機械等級材は出品工場数の約1/3で昨年度並み。審査は減点法で、今年度は含水率が全て規格を満たしている場合加点する方法を取った。目立った減点項目は、昨年度同様、等級格付のずれ、乾燥不足で、欠石と乾燥不足も散見された。49件の製品の含水率管理が規格どおり行われており乾燥レベルの見える化が行えた。総合調整審査の結果、農林水産大臣賞4件、消費・安全局長賞12件、林野庁長官賞16件を決定し推薦した。3団体の会長賞24件も選考した。優良市場さん及び優良買方さんに感謝状を、更に、長年審査に係わって

いただいた岡山県森林研究所の河崎弥生氏に特別感謝状を贈呈することとした。受賞された皆様には心からお祝い申し上げます。審査を終えての感想ですが、天皇杯や局長賞・長官賞を取られる工場が常連として上位に並んでいる。また、あつてはならないJAS規格を満たしていない製品が散見され、これらについては品質管理の一層の徹底をお願いしたい。今回3団体会長賞を授与された機関におかれましては次年度更に上位の賞にチャレンジして頂きたい。



(服部審査委員長講評)

### 【表彰】

井口室長に農林水産大臣賞と林野庁長官賞を、中熊課長補佐に食料産業局長賞の贈呈をしていただいた。

また、主催団体賞は、吉条会長が贈呈し、優良開催市場への感謝状は、市川会長が贈呈した。(詳細は、別掲のとおり)

### 【来賓祝辞】

井口室長は、受賞者への祝辞、主催三団体への感謝を述べた後、「国内の人工



(表彰の様子)

林は利用期を迎え、林業の成長産業化、地方創生に大きな期待が寄せられている。木材の安定供給体制の整備と需要拡大が重要。今後、非住宅、中大規模建築分野が期待され、木材についても品質・性能が求められ、JAS製品の重要性が増してゆくのJAS製品の供給と普及に努めて頂きたい旨語った。中熊課長補佐は、受賞者への祝意と三団体への謝意を述べるとともに、JAS制度の見直し中であり、農林水産物の輸出拡大に資するよう規格認証によって海外の方々に日本産農林水産物の優位性をアピールしていきたい。これまで以上にJASの新制度を利用して頂きJAS製品を普及・拡大して頂きたい旨御挨拶頂いた。

【受賞者】

- 「農林水産大臣賞」( ) は県名
- (有) 倉地製材所 製材工場(岐阜)、山
- 下木材(株) 製材工場、牧野木材工業
- (株) 本社工場(以上岡山)、大林産業
- (株) 製材工場(山口)

「食料産業局長賞」(株) 香澤製材所 製材工場(秋田)、協和木材(株) 埴工場(福島)、中国木材(株) 鹿島工場(茨城)、伊藤林産(有) 製材工場、(有) 森製材所 製材工場(以上岐阜)、(株) オオコーチ勢和工場、ウッドピア流通検査(協) 松阪工場(以上三重)、院庄林業(株) 久米工場、河井林産(株) 製材工場(以上岡山)、(株) 佐藤林業 製材工場、(資) 立山製材所 製材工場、(有) 三和物産 製材工場(以上熊本)

「林野庁長官賞」東北木材(株) 製材工場(秋田)、金子製材(株) 製材工場(埼玉)、(株) 東海木材相互市場大口工場(愛知)、東濃ひのき製品流通(協) 第二工場、(株) 丸七ヒタ川ウッド製材工場、東白川製材(協) 製材工場、交告製材(株) 製材工場、飛騨高山森林組合新宮工場(以上岐阜)、齋藤木材(有) 製材工場、グリーンウッドタクミ(協) ウッドピア工場(以上三重)、(株) 山長商店内地材工場(和歌山)、小林製材(株) 本社工場、銘建工業(株) 久世工場(以上岡山)、宮迫木材(株) 製材工場(広島)、八幡浜官材(協) 製材工場(愛媛)、(株) 日田十条製材工場(大分)

「優良市場」東京中央木材市場(株) (千葉)、(株) 東海木材相互市場大口市場(愛知) 「全木連会長賞」(有) 菊池製材所製材工場(岩手)、柴木材(株) 本社工場(富山)、(株) 丸佐木材製材工場(岡山)、中国木材(株) 郷原工場(広島)、嶺北林材(協) 製材工場(高知)、熊本モルター加工工業(協) 加工工場(株) 松島木材センター製材工場(以上熊本)、外山木材(株) 今町工場(宮崎)

「全市連会長賞」(株) 佐藤製材所製材工場(宮城)、丸川木材(株) 製材工場(茨城)、ウッドリンク(株) 製材事業部製材工場(富山)、桑原木材(株) 金山工場(岐阜)、越井木材工業(株) 本社工場(大阪)、中国木材(株) 本社工場(広島)、(株) 佐藤製材所製材工場、(株) 木谷製材所(以上熊本)

「全貫連会長賞」二宮木材(株) 本社工場(栃木)、越井木材工業(株) 関東第二工場(千葉)、(株) かつら木材商店第二工場、(株) 山一木材 桧杖工場(以上和歌山)、(株) 鈴鹿製材所製材工場、江与味製材(株) 製材工場(以上岡山)、(株) ネクスト本社工場(大分)、宮内林業(株) 製材工場(宮崎)

「優良買方」(株) 大忠、(株) 大登木材商店(以上埼玉)、(株) 三和木(岐阜)、コウヨウ(株) (三重)、(有) 高尾材木店(鳥取)、桑原商事(株) (熊本)

【記念講演会】

続いて、農林水産省 食料産業局食品製造課食品規格室林産物規格担当課長補佐中熊靖氏に『JAS制度の機能強化と戦略的活用について』と題して講演頂いた。概要は以下のとおり。

- ①輸出強化への規格・認証機能活用
- ②JAS規格を足掛かりとする国際規格化推進
- ③JAS制度見直しの政策的位置付
- ④現行JAS制度を巡る課題

- 2 JAS制度機能強化と戦略的活用
- 3 ①強みのアピールにつながるJAS規格の制定
- ②強みのアピールにつながるアイデア
- ア(品質)、イ(生産方式)、ウ(運

営・管理方式)、エ(測定・分析方法) 4 ①国際的に通用するJAS認証とJASマーク表示

②証明内容が判りやすいJASマーク表示

5 新たなJAS制度のポイント

■林材業の業況動向調査 (平成28年度下期) 結果について

農林漁業信用基金は、平成28年度下期の林材業の業況動向の調査結果を公表した。概要は、以下のとおり。

1. 売上の見通し
- 売上の見通しDIは△6P(前回は△19Pで13P上昇)。
2. 資金繰り等の見通し
- (1) 資金繰りの見通しDIは△6P(前回は△12Pで6P上昇)。
- (2) 借入金調達難易度の見通しDIは9P(前回は1Pで8P上昇)。
- (3) 借入金残高の見通しDIは△13P(前回は△19Pで6P上昇)。
- (4) 短期借入金の金利の見通しDIは△13P(前回は△15Pで2P上昇)。平均金利の実績は2・10%(前回より0・08%下降)。
- (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、

- ①売上代金の回収状況は、「手形50%以下」と「手形51%〜79%」が上昇、それ以外は下降。
- ②受取手形のサイトの状況は、「3カ月以上4カ月未満」と「4カ月以上5カ月未満」の割合が上昇、それ以外横

③ 仕入代金の決済状況は、「手形50%以下」「手形80%以上」が上昇、それ以外は下降。

④ 支払手形のサイトの状況は、「3カ月未満」と「3カ月以上4カ月未満」「5カ月以上6カ月未満」が上昇、それ以外は下降。

3. 設備投資の意向  
 (1) 設備投資の見通しDIは△25P(前回は△37Pで12P上昇)。28年度上期に設備投資を実施した企業の割合は26%、DIは見通しより11P少ない。

(2) 設備投資の目的(上位3項目)は、「老朽化に伴う設備の更新」(61%)、「規模拡大のための増設」(14%)、「コスト低減等の合理化」(12%)。

4. 在庫量の見通し

(1) 原木在庫量の見通しDIは△21P(前回は△14Pで7P下降)。

(2) 製品在庫量の見通しDIは2P(前回は5Pで3P下降)。

5. 純利益

純利益の見通しDIは△7P(前回は△21Pで14P上昇)。

地域別見通しDIは、「東北」・「東海」・「近畿」・「中国」・「九州」は前回調査比上昇、その他の地域では下降、全国平均では前回より15P上昇の見通し

6. 木材価格の見通し

(1) 原木価格の見通しDIは22P(前回は△4Pで26P上昇)。

(2) 製品価格の見通しDIは△6P(前回は△24Pで18P上昇)。

7. 当面する経営上の問題点

(1) 経営上の問題点(上位3項目)は、「売上不振」(20%)、「人手不足」(17%)、「原材料仕入れ原価上昇」(16%)。

8. 今後の経営の見通し他

(1) 今後の経営の見通しDIは△13P(前回は△26Pで13P上昇)。

(2) 今後の事業方針DI(拡大・縮小・転廃業)は9P(前回は7Pで前回より2P上昇)。

### 第20回全市連国産材需要拡大製材品特別展示会

全市連、木曾木材工業協同組合(麦島照幸理事長)及び木曾官材市売協同組合(野村弘理事長)は、1月28日(土)、第20回全市連国産材需要拡大製材品特別展示会を開催した。来賓は、中部森林管理局の新島俊哉局長、村上淳長野県議会議長(木曾官材市売協同組合顧問)、長野県木曾地方事務所松原秀幸課長、宮崎広雄長野県木協連専務理事、田上正男上松町長、木下秀樹八十二銀行上松支店長及び新津清亮木曾森林管理署長ほか。

開会にあたり主催者を代表し、全市連の小合専務は、「国有林・県・町及び関係者の感謝と貴重な地域資源である天然木曾ヒノキ・高等国有林材を地元で優良な製品に加工し、付加価値を付けて出荷することは、地方創生に資すると共に、資源の最大価値を実現することであり、引き続き安定供給をお願いする」挨拶した。続いて、木曾官材市売協同組合の野村理事長から前日の審査結果の講評を行った。その中で、入賞製品毎に、説明を行い、林野庁長官賞に決まった「天然木曾檜桎盤」については、「樹齢300

年の歴史から作り上げられた、長尺無地・色合い・年輪の目通りの良さと、凛とした存在感が評価された」等と説明した。

来賓の新島森林管理局長からは、「日頃の御礼と併せて、木曾ヒノキ等国有林材について、供給が止まることのないよう引き続き安定供給に努めること、木曾ヒノキは、天然林であっても、人の手により守り育てられた貴重な資源であり、本日展示されている製品については、是非、もう一声の高値を付けて頂くようお願いする」旨の御挨拶を頂いた。

木曾官材市売協同組合特別顧問の村上淳長野県議会議長は、「初セリ及び入賞者へのお祝いに加え、武道館及び美術館等建設に当たった地域材利用を例に挙げ、県議会としても木材関係団体等と共に木材産業を盛りあげて行きたい。」旨の御挨拶を頂いた。入賞者は以下の通り。

◆林野庁長官賞(天然木曾檜桎盤)(株) 勝野木材 ◆長野県知事賞(高国木曾ひのき桎盤)のむら木材(株) ◆中部森林管理局長賞(高国木曾ひのき桎盤)志水製材所 ◆全市連会長賞(天然木曾檜桎平)(株)井上 ◆長野県木連理事長賞(天然木曾檜鴨居)(有) 滝正木材。

式典後の初市は、晴天に恵まれ、約100人の買方様に参加。天然木曾檜(桎盤三面無節) 5・0m×14・0cm×13・5cmに300万円/m<sup>3</sup>、天然木曾檜(板目三面無節) 4・7m×46・0cm×6・5cmに250万円/m<sup>3</sup>の高値がついた。また、木曾署が、土木工事の際見つけた土埋木の木曾檜丸太から製材された節板も出品され、40万円/m<sup>3</sup>の値が付いた。

全体の売上数量・金額及び単価ともに前年を上回った。



(表彰の様子)



(初競りの様子)

### 「原木安定供給シンポジウム」開催

平成29年2月21日(火)、東京四谷の主婦会館において、日本木材総合情報センター、全国木材市場連盟、全森連、全

素協主催の「原木安定供給シンポジウム」が開催された。当シンポジウムは、平成28年度需給情報共有化対策事業の一環として開催され約80名が参加した。冒頭、林野庁宮澤俊輔木材産業課長の「国産材の安定供給体制の構築に向けて」と題する基調講演が行われた。

基調講演の内容は、国内森林資源の状況(国内の森林資源は利用期。国産材は毎年の成長量の半分以下しか蓄わられていない)、大型加工施設の状況(国の支援策などもあり、近年、原木を大量に消費する加工施設が増加。今後、木質バイオマス発電施設も急速に増加する見込み)、加工施設の素材入荷先(製材工場、合板工場における他県産材の素材入荷量は増加。製材工場は素材生産業者から、合板工場は木材販売業者からの入荷割合が増加の傾向)、原木需給を巡る現状と課題(①需要者・供給者ともに安定的・計画的な経営ができず、規模拡大や人材育成に支障②大型製材工場等の原木安定供給を望む声、変動する需給に応じた量と質の原木を供給できない状況、結果需給ギャップが生じ価格も大きく上下、直送・協定取引や市場による広域集荷など各地の取組を広げていく必要、望ましい安定供給体制への転換(原木の工場直送・協定取引や原木市場による広域集荷等の取組を全国に拡大。県域を超える木材流通に対応し、広域から木材を集荷しやすくするための制度も見直し。川上連携・直送型、川中(市場)集荷型、川中(工場)集荷型、木材供給の取組方向(山元還元、国産材にシフト・良材↓こだわりの家づくり、一般材・低質材↓(大量

均一)協定販売↓国産材シフト・新規需要拡大)、生産・流通コストの縮減(素材生産の効率化、加工施設の大型化、流通の合理化等によるトータルコスト縮減を図り利益の山元還元、持続的な森林整備・木材生産を推進する必要)、木材産業による経営について(木材加工業中心、原木市場など流通業中心事例)、安定供給の取組事例(川上連携・直送型、川中(市場)集荷型、川中(工場)集荷型)、スマート林業とは(地理空間情報やICT、ロボット等の先端技術を活用し、森林業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にする新たな林業)、ICTの活用等、多岐にわたる最近の情報を解り易く説明された。その後、事例報告として、「関係業界による原木運搬の情報共有化の取組」(ノースジャパン 素流協 外館聖八朗氏)、「JR貨物による原木輸送の可能性」(日本貨物鉄道(株) 大内信哉氏)、「中部ブロックにおける原木安定供給の課題」(NP



(宮澤木産課長基調講演)

○ 農林業経営支援センター 檜崎達也氏)及び「九州における国産材輸出動向」(NPO 活木活木森ネットワーク 遠藤日雄氏)の報告があった。最後に、遠藤日雄氏をコーディネイターとして、宮澤木材産業課長、事例報告者をパネラーとしてディスカッションが行われた。

■「グリーンウッド法施行関連パブリックコメント」開始

1. 林野庁、経済産業省製造産業局及び国土交通省住宅局は、「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律施行規則案」等について、広く国民等からの意見・情報の募集を開始した。今後、提出された意見・情報を考慮した上、決定することとしている。

意見公募の趣旨は、広く国民のから意見・情報を募集し、提出いただいた意見・情報を考慮しつつ、これらを決定することを目的に行うもの。

- 2. 対象案及び関連資料の入手方法
  - ・ 林野庁木材利用課、経済産業省生活製品課並びに国土交通省木造住宅振興室及び建設業課において配布
  - ・ 農林水産省ホームページ (<http://www.maff.go.jp>) においで掲載
- 3. 意見・情報の提出方法
  - (1) インターネットによる提出
  - (2) 郵送 〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省林野庁林政部木材利用課
  - (3) FAX 03-3502-0305

雑記帳

全市連時報を読んでおられる、ほとんどの方は、正倉院をご存知であろう。聖武天皇・光明皇后ゆかりの品をはじめ天平時代(西暦729年から749年の天平年間)を中心とした多数の美術工芸品を収蔵していた。校倉(あぜくら)造の高床式倉庫はヒノキ材を使用して造られ、収蔵品は、スギ材で造られた櫃に納められており、これらの優れた木材と、維持・管理に携わってきた多くの方々の努力で、8世紀以降千二百年以上もの長い間、蔵と収蔵品の宝物が現在まで保たれてきた。伝世品としては、稀に見る古さで、世界中で、ここにしか残っていないものもある。その間、正倉院の校倉は何回か補修され、櫃も更新されているようである。戦火等による焼失の危機も一度ならずあった。補修に携わった大工等技術者の弛まぬ技術の継承も重要で、継続的な人の働き掛けなしに建築物等は、保たれなかつただろう。ヒノキとスギが使用されたのは、身近にあつて手に入れやすく、加工し易いことがあつただろう。加えて、高温多湿な日本の気候に耐えるため、風土に合った樹種の特長(ヒノキの耐久性、スギの湿度調節、有害物質吸着等)を熟知していた古代人の知恵もあつたことと思う。アカマツやクロマツでもなければ、広葉樹でもないのである。科学技術の進歩で防腐剤の含浸等により高い防腐蚀性・防虫性等が得られる時代ではあるが、適材適所、もう一度日本の郷土樹種の良さ・伝統を守る大工等の技術を見直したいものである。